

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録（2014.12）平成25年度:96.

終末期看護の充実につながる要因の検討～エンゼルケア導入後の看護師の思いから～

松屋 有紀子, 藤原 ゆみ, 大戸 裕美絵, 小山内 美智子

# 終末期看護の充実につながる要因の検討 ～エンゼルケア導入後の看護師の思いから～

旭川医大病院9階西ナーステーション ○松屋有紀子、藤原 ゆみ、大戸裕美絵、小山内美智子

## 【はじめに】

A 大学病院 B 病棟は循環器・呼吸器内科で、肺癌患者の治療を行っている。病状の改善が難しい患者もあり、月平均2名看取りの看護を行う中、エンゼルケア（シャワー浴・メイク）を導入し効果を実感した。そこで、看護師の看取りの看護に対する思いから終末期看護を充実させる要因について分析した。

## 【研究方法】

A 病院 B 病棟に勤務する死後処置とエンゼルケアの両方を経験した中堅看護師7名に半構成的面接を実施。逐語録作成、コード・カテゴリー化した。

## 【倫理的配慮】

研究の主旨、プライバシーの保護について説明し同意を得た。

## 【結果】

203 のコード、28 のサブカテゴリー、8 のカテゴリーを抽出。《》内はカテゴリーを表す。

《看護師・家族のグリーフケアとなることを実感》《個別性を尊重したケアができることへの喜び・満足感》《外観が改善することでケアの成果を実感》《終末期看護の充実を求める気持ち》《家族の反応からケアの成果を実感》《亡くなった後も行えるケアがあることを実感》《死

後の処置に対する抵抗感》《エンゼルケアの効果を実感し継続を求める気持ち》

## 【考察】

エンゼルケアは、家族の参加も求め易く死後も患者の個別性を尊重できる看護師独自のケアと看護師は認識していた。また、家族が辿る悲嘆の過程において、エンゼルケアが効果的に作用する事を家族の反応から実感していた。家族と共に生前の事を振り返り、家族から感謝の言葉を聞き、死後のメイクでその人らしさを取戻せる事で、看護師として果たせる役割がある事を認識し、やりがいを実感できていた。そして、終末期看護の更なる充実を求めるよう看護師の意識は変化していた。

## 【結論】

1. 終末期看護を充実させる要因として8個のカテゴリーが抽出された。
2. エンゼルケアは患者・家族の意向に添い易いケア方法である。
3. 看護師はエンゼルケアの効果を実感する事で自己の果たせる役割を認識し達成感が高まっていた。